



# 埋文だより

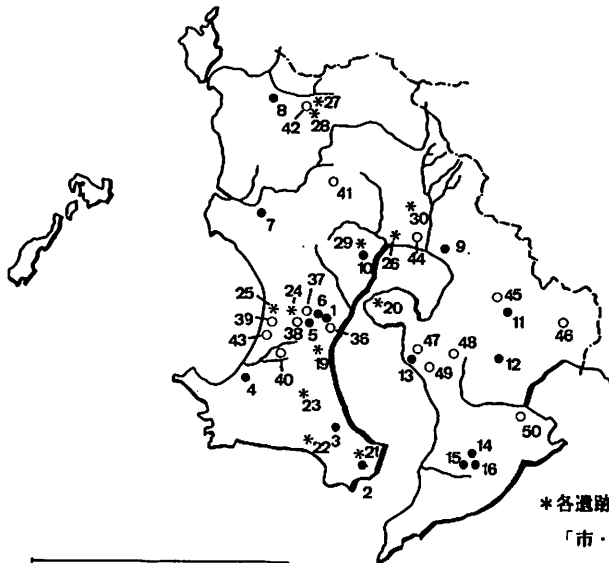
第8号

平成7年6月30日発行

## —いよいよ始まった今年度の調査—

～あなたも、遺跡をのぞいてみませんか？～

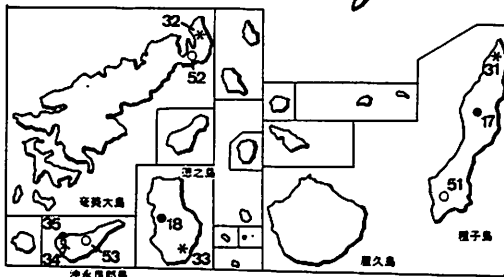
7月から調査予定の遺跡（\*印）



	遺跡名	調査	所在地	時代
19	東迫	市	鹿児島市下福元町	
20	下尻山	町	桜島町	
21	橋牟礼川	市	指宿市十二町	
22	堀川	町	顕娃町御領	古・歴
23	松山製鉄	町	知覧町厚地	歴
24	花段	町	伊集院町徳重	
25	六ツ坪	町	日吉町	
26	御里窯跡	町	加治木町仮屋町	
27	米置	市	大口市曾木	縄
28	東山	市	〃	古・歴
29	平松城	町	始良郡重富小	歴
30	南十三塚	町	溝辺町南十三塚	
31	寺ノ門	市	西之表市国上	
32	字宿貝塚	町	笠利町字宿	
33	カアツカ	町	伊仙町喜念	
34	池原B	町	知名町正名	
35	浜須B	町	〃 田皆	

\*各遺跡については、<調査>の欄に「国・県」とある遺跡の場合は当センターへ、「市・町・村」とある遺跡の場合はその市町村へお問い合わせください。

4～6月調査終了の遺跡（○印）



	遺跡名	調査	所在地	遺跡名	調査	所在地
36	北麓	市	鹿児島市	45 片水段	県	大隅町
37	アミカ	国	松元町	46 小迫	町	志布志町
38	松山原	県	松元町	47 横道	市	垂水市
39	伊作城	県	吹上町	48 大浦	市	鹿屋市
40	平畑	町	金峰町	49 中ノ原	市	〃
41	中津川城	町	薩摩町	50 波見西	町	高山町
42	並木口	市	大口市	51 石ノ峯	町	南種子町
43	今井ヶ島	町	吹上町	52 手広	町	竜郷町
44	弥勒院跡	町	単人町	53 小手野	町	和泊町

4月以降調査継続中の遺跡（●印）

	遺跡名	調査	所在地	時代
1	山ノ中	国	鹿児島市西別府町	
2	中小路	市	指宿市十二町	
3	帖地	町	喜入町生見	旧・縄
4	カノ原	市	加世田市内布	旧・縄・古
5	前原	国	松元町福山	縄
6	前山	国	松元町石谷	縄・古
7	永利城	市	川内市永利	歴
8	尾崎B	市	出水市文化町	縄・弥・歴
9	上野原	県	国分市上之段	縄・弥・古
10	中原	国	始良町脇元	縄・歴
11	鳴神	町	大隅町	縄
12	鳥居ヶ段	町	輝北町上平房	縄・歴
13	椋原貝塚	町	垂水市椋原	縄・弥
14	中尾	県	吾平町上名	縄・古
15	廣牧	町	〃 麓	縄・弥・古
16	道脇	町	〃 下名	縄・古・近
17	三角山	県	中種子町砂中	縄
18	兼久塔原	町	天城町兼久	縄

### 目次

	頁
・発掘調査中の遺跡	1
・発掘調査紹介(7)	2～3
・鹿村ヶ迫遺跡	
・小田遺跡	
・仁田尾遺跡	
・上野原遺跡	
・学習展示室から	4
—奈良・平安時代—	
・発掘調査の手順(1)	5
—分布調査—	
・速報展のご案内	5
・県民セミナーはじまる	6
・埋文友の会はじまる	6
・おもなできごと	6

## 発掘調査紹介 (7)

## 旧石器時代の狩猟法が明らかになった！

かむら さこ いせき いるきちやうらののみょうなかのほら  
 鹿村ヶ迫遺跡 《所在地：入来町浦之名中ノ原》

鹿村ヶ迫遺跡は、標高約110mの北向きの斜面に近い台地のはしにあります。

平成7年3月の発掘調査では、旧石器時代細石器文化期（約12,000～13,000年前）に黒曜石で作られた道具などが500点ほど出土しました。

さらに、斜面に一番近いところからは、陥し穴だろうと想像される穴が2基発見されました。上から見ると、長さが約1m、幅が約0.8mで、楕円形と長方形をしています。深さは約0.7mで、穴の底にはクイがうちこまれたと考えられる小さな穴が見つかりました。

この時期で同型の陥し穴は、県内では松元町仁田尾遺跡、出水市大久保遺跡でも発見され、全国でも最も古い陥し穴と考えられる、たいへ

ん貴重な発見といえます。



陥し穴を半分にした状況

これらの陥し穴は、イノシシなどを生けどりにするために作られたものと考えられます。そのため穴に落ちた動物が身動きできないよう工夫がこらされています。

(入来町教育委員会 藤井法博)

## 火山災害に埋もれた田と畠

おだ いせき いぶすきしじゅうにちやうおだ  
 小田遺跡 《所在地：指宿市十二町小田》

小田遺跡は、山々に深く入り込んだ、標高約25mの谷状地形の西側にあります。平成6年の発掘調査では、平安時代（874年3月25日）の開聞岳の噴火によって、埋もれた水田と畠の跡が発見されました。

水田跡は、傾斜の激しい斜面に階段のように造られる「棚田」になっており、全部で8枚発見されました。1枚1枚の水田は、粘土を板かまぼこの形に盛って造った畦で分けられています。水田と水田との段差は50cmもありました。棚田状の水田跡は、鹿児島県内では初めての発見であり、貴重なものです。

水が湧く山裾の谷部に水田を造ってイネを栽培し、高台では畠を造りイネ（陸稲）やアワ・

ヒエなどの雑穀を栽培していたようです。



棚田が検出された状況

このことから、平安時代に朝廷から科せられた税に対して、古代単人の人々が米やアワ・ヒエなどを納めていたことが想像されます。

(指宿市教育委員会 鎌田洋昭)

## 解明された旧石器文化

に た お い せ き ひおきくんまつもとちよういたに  
 仁田尾遺跡 《所在地：日置郡松元町石谷》

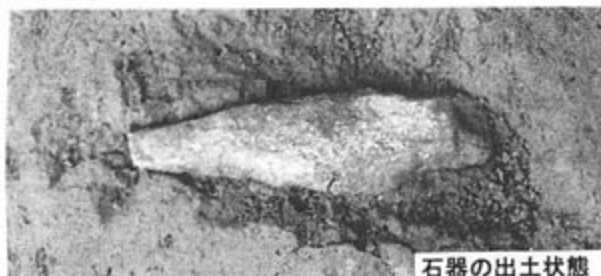
仁田尾遺跡は、標高約190mのシラス台地にあり、旧石器時代から平安時代にかけての複合遺跡です。南九州西回り自動車道建設に伴い、平成5年から発掘調査が実施されており、すでに10万点以上の遺物が出土しています。

特に今回の調査では旧石器時代のうち、ナイフ形石器文化（約2万年前）の時期と、細石器文化（約1万3千年前）の時期とのものがあることがわかりました。

ナイフ形石器文化では、調理施設と思われる礫群が50ヶ所見つかかり、狩猟に使う石器（ナイフ形石器など）や、動物の解体に使う石器（掻器など）が出土しています。

細石器文化では、動物を捕るための陥し穴16基が検出されました。興味深いことは、旧石器

時代の石器（細石器など）が、縄文時代の特徴をもつ石器（石鏃や磨石など）や土器といっしょに出たことで、このことは旧石器時代から縄文時代への過渡期の遺跡であったことを示しています。



石器の出土状態

また、この遺跡で発見されたナイフ形石器文化と細石器文化とは、共に遺構や遺物の出土量及びその種類において九州最大であり、全国から注目を集めています。

## 花開く縄文早期文化

う え の ほ ら い せ き こくぶしうえのだん  
 上野原遺跡 《所在地：国分市上之段》

上野原遺跡は、南に鹿児島湾や桜島を、北に霧島連山を望める標高約260mの台地にあります。

平成4年度から調査が続けられていますが、これまでの約90,000㎡の調査では、縄文時代から古墳時代までの長い期間にわたる遺物・遺構がみつかりました。

なかでも注目されるのは縄文時代早期（約7,500年前）の頃の遺物・遺構です。平椀式土器と呼ばれる華麗な土器や耳飾り（耳栓）や土偶など垂飾品や祭りに使われたと思われる遺物がたくさん出土しています。また、焼いた石の間に肉や魚等を入れて蒸し焼き料理をしたと思われる集石遺構が数多く見つかりました。これらのことから、長い期間に多くの人達がここ

で生活をしていたものと考えられます。



集石遺構

縄文時代早期という早い時期に割合に安定した生活ができ、心豊かでゆとりのある社会があったのではないかと想像させられる遺跡です。

## 学習展示室から

## ～奈良・平安時代～ (710年～1192年)

都が近畿<sup>きんき</sup>地方周辺におかれ、統一した政治が行われるようになった奈良時代には、政治だけでなく人びとの暮らしなどまで全国的に似たものになってきました。近畿地方から遠く離れてそれまで独自の地域社会のなかで生きてきた南九州の人びとも、やがてそうした政治・文化のなかにとけ込んでいきました。8世紀前半には、日向国<sup>ひゅうがのくに</sup>から薩摩国<sup>さつまのくに</sup>と大隅国<sup>おおすみのくに</sup>が分離し、一国として独立しました。

薩摩国の国役所<sup>せんだいし</sup>は今の川内市に、大隅国の国役所は今の国分市に置かれました。その近くには国分寺も建てられ、仏教文化の広まりと共に精神文化も大きく変わり、役人や僧侶などの間では文字が盛んに使われました。

それが地方にまで広がっていったことが県内各地で発見される墨字や刻字のある土器の存在で分かります。また、字の中には「阿多」という地名、「伴家」・「仲家」という人名、祭りのときに用いられる「安」・「九」などの字の存在から遺跡の性格を示してくれるものもあります。

役人たちの一部は都から派遣されてきましたが、その人たちには一般の人では持ちえないような物も与えられました。役人の地位を示すバツクル<sup>おびかなく</sup>（帯金具）、墨・硯、中国大陸で焼かれた青磁・白磁、山口や京都などで焼かれた色のついた焼き物（緑釉陶器）などもそうした物の一つです。こういうことから物が出ている所は役所、あるいは役人の住居などであることを示していることもあり、建物の配置・構造などとともに、出土品からも遺跡の性格が分かることがあります。

当時、日常使われた生活用具には土器・金属製品・木器などがありますが、その大半を占めるのは土器でした。土器には素焼きの土師器と、釜で焼かれた須恵器とがあり、これらは用途によって使い分けがされていました。しかし、南九州では須恵器を焼く技術が遅れたため須恵器

は多く出土していません。

土師器は水がもれやすいという欠点がありますが、火を受けてもこわれにくいという長所もあります。そのため物を煮る甕<sup>かめ</sup>や羽釜<sup>はがま</sup>には土師器が用いられます。食器は深さによって皿・坏・椀などに分けられますが、これには土師器と須恵器の両者が使われました。このころになると古墳時代までと違って食器は個人個人によって分けられていたようで、名前を書いたり、数を書いたり、なんらかの目印を記した物があります。

9世紀ごろになると南九州でも須恵器が焼かれるようになり、食器だけでなく液体を入れる大甕<sup>おおかめ</sup>や、保存するものを蓄える壺<sup>たくわ</sup>などは須恵器に代わってきます。一方、土師器の欠点である水もれを防ぐために工夫され、内面をいぶした内黒土師器や、黒色土器、内赤土器なども作られました。さらに、12世紀頃になると磁器類も一般の人々にまで広まっていきました。



一方、仏教文化の広がりとともに火葬の風習<sup>かそうふうじゅう</sup>も広がり、骨壺<sup>こつづぼ</sup>が県内各地で発見されています。また近年、墓の周りに溝を巡らして、生活の場と死の場とを区画する慣習のあったことも明らかになってきています。このことより、死に対して精神的変化があったこと、全国と同一歩調をとった宗教観があったことが考えられます。

## 発掘調査の手順(1)

## ～ 分布調査 ～

地下に埋もれた土器や石器などの遺物は、長い間に耕作などによって地表に出てくる場合があります。そこで、畑などをくまなく歩いてよく見ると、そうした遺物を発見することができるのです。遺物が見つからなくても地形によっては、少し土を掘ってみることもあります。このようにして、おもに地表に落ちている遺物などを見つける方法で、遺跡の存在やある場所を調べるのが「分布調査」です。

分布調査によって確認された遺物の散布地は、地図の中にエリアで囲み「周知の遺跡」として登録されます。

大隅地区や始良地区、南薩地区など、大きな開発が予想される地区については、計画的に分布調査を実施して遺跡の確認に務めています。

また、農業基盤整備事業や道路建設事業など



の大型開発や、単発的な小規模開発が実施される時は、事前に分布調査を実施し、遺跡の有無の確認をおこない、遺跡の保護と開発との調整を行っています。

## 学習展示室の展示が新しくなりました

当センターは開所して3年が経過し、県内はもとより県外からも多くの方々に、学習展示室の利用をいただいています。利用者についてみると、小学生の占める割合が多く、この傾向は今後更に増大するものと思われます。

そこで、更にわかりやすく親しみのある見学ができるように、現在、常設展の見直しを進めています。

今回の見直しでは、

- ①「体験し、考える展示」として、発掘情報などを掲載できる年表を掲示したり、ワークシートを作成する。
- ②日本全体の中での「鹿児島の特徴と位置づけ」として、各時代の鹿児島の特徴を3点ずつ取り出して、説明をする。
- ③「境界のない展示場」として、整理作業室を公開し、申し出てもらえば、拓本取りなどを体験できるようにする。

また、センター周辺の白金坂や重富島津家の墓などの所在を盛り込んだ史跡マップも作成する予定です。

今後とも、新たに発掘された資料をいち早く提供すると共に、みなさんの知的欲求に答えられるような展示を目指して頑張っていきますので、ご意見等をお聞かせください。



## 県民セミナーはじまる

3年目をむかえた「歴史のふるさと県民セミナー『古代を探る』」の開講式と第1回目の講座が、5月13日(土)に59名の受講者を集めて、当センター研修室で行われました。

今年度は「交流の考古学」という統一テーマを設定しました。これは、出土遺物をとおして各時代の鹿児島と他地域との物の交流や人の動きを探ろうとするものです。今後、セミナーの様子は「埋文だより」で報告していく予定です。

## おもなできごと

### 平成7年度人事異動

#### ◎転出 (H7. 4. 1付)

文化財主事 大野重昭(輝北町立平南小学校教頭へ)

文化財主事 井ノ上秀文

(県立総合教育センター主査へ)

主事 中村和代 (県教育庁総務課主事へ)

#### ◎退職者 (H7. 3. 31付)

文化財調査員 宮之原智徳

文化財調査員 鈴 貢

文化財調査員 西久保淳美

文化財調査員 常田和彦

(吹上町教育委員会社会教育課主事補へ)

#### ◎転入者 (H7. 4. 1付)

主事 追立ひとみ(総務課育英財団から)

文化財主事 寺師孝則

(横川町教育委員会派遣社教主事から)

文化財研究員 三垣恵一(県立松陽高等学校から)

文化財研究員 有馬孝一(内之浦町立岸良中学校から)

文化財調査員 桑波田武志(新規採用)

文化財調査員 西園勝彦(新規採用)

文化財調査員 松村智行(新規採用)

文化財調査員 小川みゆき(新規採用)

### 第4期(平成7年度)長期研修講座はじまる

平成7年度長期研修講座は、7名の受講者を迎えて5月8日(月)に始まりました。

受講者は次の通りです。

木場裕文 (樋脇町) 計屋正人 (上屋久町)

森田誠 (大口市) 元田信有 (宇検村)

松山幹生 (内之浦町) 伊藤勝徳 (伊仙町)

田平祐一郎 (中種子町)

## 埋文友の会発足

「考古学についての知識と理解を深める」ことを主な目的として、平成7年4月22日に発足しました。当センターが平成5年度から実施している県民セミナーの受講者を中心に結成されたものです。

活動は、年6回(原則として偶数月の第4土曜日)程度集まって、考古学を中心とした講座や講演、あるいは遺跡めぐりや発掘体験などの実施を予定しています。

5月末日現在、会員が80名を越えました。年会費千円でどなたでも会員になれます。お問い合わせは当センター「埋文友の会」係まで。

### 編集後記

#### 『埋文だより』第8号発刊によせて

『埋文だより』は、開所以来、3年間に第1号から第7号まで刊行してきました。その間、A4版に拡大し、カラー化等に努めてまいりましたが、今後は『所報』として発行することとしました。

なお、今まで親しまれてきました『埋文だより』は、速報紙として今回から市町村の発掘情報等を取り入れ、よそおい新たに出発いたします。

今後ともご愛読のほどよろしくお願ひします。

### 埋文だより 第8号

発行日：平成7年5月31日

編集・発行：

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-56

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995-65-8787

FAX 0995-65-8117